

科 目	週 時 数
国語探究S(設定)	2 時間

目 標	実社会において必要となる、文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質や能力を養う。また、多様な文章・図表などをもとに複数の情報を統合し構造化して考えをまとめたり、その過程や成果を根拠に基づいて表現できる能力を養う。	
	知識 技能	実社会に必要な国語の知識・技能に加え、背景となる文化や社会情勢を理解する。
	思考 判断 表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、複数の素材から自身の考えを立論し、他者との関わりの中でそれを的確に表現する。
	主体性 協働性 多様性	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語活動を通して他者や社会と関わりつつ、自己の向上を図る。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	教科書所収文章の読解	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点や論理展開、表現の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な論理運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。
2 学 期	教科書所収内容のまとめ ・適宜、問題演習を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点や論理展開、表現の特色を理解する。 ・教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な論理運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
教科書	『ちくま評論入門』『ちくま小説入門』(ちくま書房)
副教材	共通テスト対策 現代文完答22 共通テスト対策 新しい第3の現代文 集中完答11 イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、読解の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、読解についての問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学Ⅲ	4 時間

目 標	微分法および積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度および応用力を養成する。	
	知識技能	数学的活動を通して、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見いだし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○関数と極限 ○微分 ○微分の応用 ○積分とその応用	○指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。 ○微分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。 ○関数の増減に着目し、その変化に応じた処理ができる。 ○積分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。
2 学期	○問題演習	○諸定理、諸公式を正しく用いて、様々な微分・積分の計算ができる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学Ⅲ Standard』(東書 数Ⅲ 702)
副教材	Hi-PRIME 数学Ⅲ (東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の持

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B、副教材「PRIME」の完全理解
	60%	教科書の例題・問・問題・練習問題Aの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学C	3 時間

目 標	ベクトル、平面上の曲線および複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線および複素数平面における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線および複素数平面における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
育 っ て たい 力	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○ベクトル ○平面上の曲線	○ベクトルの演算法則が成り立つことを考察することができる。 ○平面上のベクトルが2つの実数の組で成分表示されることを平面上の点の座標と関連付けて理解する。 ○ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解する。 ○位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したり
2 学期	○複素数平面 ○問題演習	○複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。 ○ $a+bi$ の形の複素数を極形式で表すことができる。また、複素数の積・商と複素数平面上の回転移動との関係を理解する。 ○ド・モアブルの定理について理解する。 ○諸定理、諸公式を正しく用いて、様々な微分・積分の計算ができる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学C Standard』(東書 数Ⅲ 702)
副教材	ニューグローバルMarch 数学 I + II + A + B + C (東書) 攻略! 共通テスト 数学 I + II + A + B + C Pick Up A1 (東書) 共通テスト対策 パック30数学 I A・II BC (駿台出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の持

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のLevelUpの完全理解
	60%	教科書の例題・問・Trainingの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究Sr(設定)	4 時間

目 標	既習事項について、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を育てる。さらに、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
育 っ たい 力	知識 技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考 判断 表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性 協働性 多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとするができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○数と式 ○関数と方程式・不等式 ○式と証明 ○データの分析 ○場合の数・確率 ○図形の性質 ○図形と式 ○三角比・三角関数 ○指数関数・対数関数 ○微分法 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の本質的理解。 ○諸事象の体系的な理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。 ○問題解決能力の育成。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の総仕上げ。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	「改訂版 ニューグローバルMarch 数学 I + II + A + B + C」(東書) 独自教材(プリント)
副教材	攻略! 共通テスト 数学 I + II + A + B + C Pick Up A1 (東書) 2026 共通テスト実戦問題パックV 数学 I・A 35(駿台出版) 2026 共通テスト実戦問題パックV 数学 II・B・C 35(駿台出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授

知識・技能分野の到達目安	80%	「ニューグローバル」の*つきTryの完全理解
	60%	「ニューグローバル」のReview・Exerciseの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究S(設定)	2 時間

目 標	既習事項について、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を育てる。さらに、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
育 っ て たい 力	知識 技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考 判断 表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性 協働性 多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとしてすることができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○数列 ○統計 ○ベクトル	○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の本質的理解。 ○諸事象の体系的な理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。 ○問題解決能力の育成。
2 学期	○平面上の曲線 ○複素数平面 ○問題演習	○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の本質的理解。 ○諸事象の体系的な理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。 ○問題解決能力の育成。 ○高校数学の総仕上げ。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	攻略! 共通テスト 数学 I + II + A + B + C Pick Up A1 (東書) 独自教材(プリント)
副教材	2026 共通テスト実戦問題バックV 数学 I・A 35(駿台出版) 2026 共通テスト実戦問題バックV 数学 II・B・C 35(駿台出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の持

知識・技能分野 の到達目安	80%	「攻略! 共通テスト 数学 I + II + A + B + C Pick Up」の実践問題の完全理解
	60%	「攻略! 共通テスト 数学 I + II + A + B + C Pick Up」の練習問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
物理	3 時間

目 標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
育 っ たい 力	知識 技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考 判断 表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性 協働性 多様性	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	第3編 波(波の性質、音と光) 第4編 電気と磁気 (電流と磁界) 第5編 原子 (電子と光、原子と原子核、物理学が築く未来)	<ul style="list-style-type: none"> 水面波、音、光などの現象を観察、実験などを通して探究し共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。 電磁気に関する現象、更には電子、原子及び原子核に関する現象を観察などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 授業で扱うプリントが終わったら、もう一度全体を振り返り、一歩深い根拠の理解に至る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習により、第1編～第5編の中から、学院大の志望学科に即した分野を深める(「特集」と「探究」) 問題演習(「章末問題」) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、物理法則が成り立つ条件や、数学的な処理についての理解を深める。 実験や観察を通して、物理の原理や法則を深く理解するとともに、装置の工夫やデータの扱い方についても理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『物理』(東京書籍)
副教材	セミナー物理(第一学習社)、パワーマックス共通テスト対応模試(Z会編集部)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー物理基礎+物理」の発展問題の完全理解
	60%	「セミナー物理基礎+物理」の基本問題と『物理のStairs』(問題プリント群)の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
化学	4 時間

目 標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基にして、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察・実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・典型金属元素について ・遷移元素について ・金属イオンの定性分析 ・有機化学(脂肪族化合物) ・有機化学(芳香族化合物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属は、両性元素・イオン化傾向と関連させながら、各金属元素の性質を理解することができる。 ・水溶液中の陽イオンを分離分析できる。 ・異性体の数を正確に求められるようにする。 ・アルコールの酸化など基本反応を理解する。 ・ベンゼン環を有する芳香族化合物の基礎知識を身につけ、各性質に応じた分類ができる。 ・日常生活に関連する高分子化合物の合成法・性質を理解する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・合成高分子化合物について ・天然高分子化合物について ・有機化合物の構造決定の問題演習 ・化学結合と結晶の問題演習 ・化学反応の種類について ・総合問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の構造決定について演習を重ねて、身につけた知識をアウトプットして、知識の定着を図る。 ・化学結合について、問題演習からより理解を深める。 ・化学反応を分類して、各化学反応の理解を深める。 ・問題演習により、化学的に探究する能力と態度を身につける。

授業の形態	一斉授業
教科書	『化学』(数研出版)
副教材	セミナー化学(第一学習社) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・提出物・授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「セミナー化学」の問題の完全理解
	60%	教科書演習問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
生物	3 時間

目 標	生物や生物現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	
育 っ たい 力	知識 技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する。
	思考 判断 表現	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探究活動を通して、生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり、生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	主体性 協働性 多様性	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の反応と行動 ・植物の成長と環境応答 ・生態系のしくみと人間の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の環境応答についての観察・実験などを通して、動物の反応と行動および植物の環境応答について理解させるとともに、それらの観察・実験などの技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力などを育成する。 ・ 個体群内や個体群間の相互作用に関する実験や資料にもとづき、個体群や生物群集が維持されるしくみや、個体間・個体群間の関係性を見出して理解させる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物全般にわたって、基本事項の確認と内容理解を深めるだけでなく、観察や実験などの探究活動を通して、思考力や判断力を身につける。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『高等学校 生物』(第一学習社)
副教材	最新図説生物(第一学習社) ニューグローバル生物(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる 実験や観察を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の発展問題の完全理解
	60%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究物理(設定)	2 時間

目 標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
育 っ たい 力	知識 技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考 判断 表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性 協働性 多様性	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	第3編 波(波の性質、音と光) 第4編 電気と磁気 (電流と磁界) 第5編 原子 (電子と光、原子と原子核、物理学が築く未来)	<ul style="list-style-type: none"> 水面波、音、光などの現象を観察、実験などを通して探究し共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。 電磁気に関する現象、更には電子、原子及び原子核に関する現象を観察などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 授業で扱うプリントが終わったら、もう一度全体を振り返り、一歩深い根拠の理解に至る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習により、第1編～第5編の中から、それぞれの入試問題に即した分野を深める(「特集」と「探究」) 問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、物理法則が成り立つ条件や、数学的な処理についての理解を深める。 実験や観察を通して、物理の原理や法則を深く理解するとともに、装置の工夫やデータの扱い方についても理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『物理』(東京書籍)
副教材	セミナー物理(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー物理基礎+物理」の発展問題の完全理解
	60%	「セミナー物理基礎+物理」の基本問題と『物理のStairs』(問題プリント群)の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究化学(設定)	2 時間

目 標	「化学基礎」・「化学」で学習した内容に関連する実験や探究活動、問題演習を通じて学習内容の理解を深める。さらに、習得した化学の基本概念をもとに自然の理解を深め、科学的な思考力・判断力を育成する。	
育 っ て たい 力	知識 技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考 判断 表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性 協働性 多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と伝える能力を身につけることができる。主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎の問題演習 ・化学(前半)の問題演習 ・化学結合と結晶の問題演習 ・実験や観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学基礎全般にわたって、問題演習から内容についての理解をより深める。 ・理論化学の分野について、問題演習から内容についての理解をより深める。 ・化学結合について、問題演習からより理解を深める。 ・各種実験や観察を行い、化学的に探究する姿勢や化学現象を客観的に捉える姿勢を育む。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・化学(後半)の問題演習 ・有機化合物の構造決定の問題演習 ・総合問題演習 ・実験や観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・理論化学、無機化学や有機化学の分野について、問題演習から内容についての理解をより深める。 ・有機化合物の構造決定について演習を重ね、身につけた知識をアウトプットし、知識の定着を図る。 ・問題演習により、化学的に探究する能力と態度を身につける。 ・各種実験や観察を行い、化学的に探究する姿勢や化学現象を客観的に捉える姿勢を育む。

授業の形態	一斉授業
教科書	セミナー化学(第一学習社)
副教材	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー化学」の問題の完全理解
	60%	「セミナー化学」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究生物(設定)	2 時間

目 標	生物や生物現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	
育 っ たい 力	知識 技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する。
	思考 判断 表現	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探究活動を通して、生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり、生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	主体性 協働性 多様性	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の反応と行動に関するさまざまな実験 ・植物の成長と環境応答に関する実験 ・生態系のしくみと人間の関わりに関する実験 ・細胞や組織の顕微鏡観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の環境応答について、生物の授業では実施できなかった観察・実験の機会を多く設定し、思考力・判断力・表現力などを育成する。 ・植物群落調査を実施し、優占種を調べ、日向と日陰で生育している植物の違いを理解する。 ・主にモデル生物を用いた遺伝子組換え実験や形質発現に関する実験を実施し、遺伝子発現に関する理解を深める。 ・ゲノム中に含まれる多数の遺伝子から目的の遺伝子を単離し、増幅する方法について理解させる。特に、制限酵素・ベクター・クローニング・PCR法について理解させる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物全般にわたって、基本事項の確認と内容理解を深めるだけでなく、観察や実験などの探究活動を通して、思考力や判断力を身につける。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『高等学校 生物』(第一学習社)
副教材	最新図説生物(第一学習社) ニューグローバル生物(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる 実験や観察を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の発展問題の完全理解
	60%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> •運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 •様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> •運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目 標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。	
	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
育 っ た い 力	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法/仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学 期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Unit 8 Is there anything money can't buy? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication III (東京書籍)
副教材	READING CORE for 共通テスト別冊ノート付き (啓隆社) 2026 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リーディング)40minutes×14 (ラーンズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
論理・表現Ⅲ	2 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
育 っ たい 力	知識 技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。
	思考 判断 表現	日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Lesson 1 A City Worth Visiting Lesson 2 Our Hometowns Lesson 3 What Makes a City Attractive? Lesson 4 How Do You Spend Your Time? Lesson 5 Trying Something New Lesson 6 The Art of Translation	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 受動態・動詞・助動詞・形容詞／副詞・比較
2 学期	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Future Energy Sources Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 関係詞・不定詞・動名詞・分詞

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	be CLEAR English Logic and Expression III (いっぴずな書店)
副教材	三訂版 入試必携英作文 Write to the Point本冊・詳解 (数研出版) 2026 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リスニング)30minutes×7 (ラーンズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語探究Sr(設定)	1 時間

目 標	理系分野に関する時事問題について、基本的な内容に関する語句や表現を学習することで、科学英語に対する理解を深める。 大学入学後の専門課程の導入となる科学的内容を英語で学習する。	
	知識 技能	科学分野に関する事象について知識を深める。 さまざまな科学分野に関する語彙や表現を理解する。
	思考 判断 表現	さまざまな科学分野について、専門的な語彙や表現を用いながら事象をまとめると同時に、自分の考えを表現する。
	主体性 協働性 多様性	科学的な事象について興味・関心を持って理解を深めようとする。また、さまざまな科学分野の事象について、協働で事象をまとめようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	GELPを活用しながら、4技能の全てを駆使して理系分野に関する事象を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・科学分野に関する語彙・表現を身につける。 ・科学分野について英語で資料を読む。 ・科学分野についての自分の考えを英語で表現する。
2 学期	GELPを活用しながら、4技能の全てを駆使して理系分野に関する事象を学習する。 興味のある理系分野について探究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・科学分野に関する語彙・表現を身につける。 ・科学分野について英語で資料を読む。 ・科学分野についての自分の考えを英語で表現する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
主たる教材	GELP(ベネッセ)
副教材	数学・理科の教科書
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容＋英語論文によって、定期試験を実施する。
	②小テスト	科学分野に関する語彙の小テストを実施する。
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する。
	④準備	必要な物品を確実に準備する。
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む。

知識・技能分野 の到達目安	80%	理系分野の語彙・表現を用いて、与えられたテーマについて詳しく述べることができる。
	60%	理系分野の語彙・表現を用いて、与えられたテーマについて述べるができる。

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・クリュニー修道院 ・スコラ学 ・マリア崇敬 各福音による発展 ・教皇のバビロン捕囚 ・ウイクリフとフス ・東西教会の分裂 ・東方正教会 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・エラスムス ・ルネサンスとその時代 ・エックハルトとフロレーテ ・宗教改革 ルター ・改革派の体系化 カルヴァンによる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書の翻訳と、人文主義的立場を学ぶ。 ・神なき文化から魂の救いを考える。 ・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。 ・塔の体験、95ヶ条の提題を学ぶ。 ・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	キリスト教の歴史
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ た い 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学 期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

授業の形態	個人の探究活動 ワークショップ
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする